

1. 件名：ALPS 処理水希釈放出設備B群循環攪拌運転時のA群タンクの水位低下について
2. 日時：令和5年4月5日（水）13時15分～14時40分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、正岡企画調査官、横山係長、塩唐松係長
松田室長補佐、大辻室長補佐（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力規制事務所
小林所長、松沢原子力運転検査官、木村原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）
原子力規制部 検査グループ 専門検査部門
山元首席原子力専門検査官
山中原子力専門検査官（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 担当2名（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力発電所 担当6名（テレビ会議システムによる出席）
5. 要旨
 - 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、3月19日に確認されたタンクA群 A10 タンクのシートパスについて資料に基づき、以下の説明があった。
 - 弁体にガタつきが発生した理由
 - 推定原因・対策等
 - 対策の反映状況
 - 【参考】循環系統図
 - 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について事実関係を確認するとともに、以下のコメントを行った。
 - カップリングボルトの締め付け作業を実施するにあたり、作業員が十分な知識及び技術を有していない場合でも本事案の発生を防止できる対策（東京電力としての工事管理体制等）を示すこと。
 - 対策として講じるカップリングボルトの締め付け量の管理について、突き出し長さの妥当性の検証試験を踏まえて説明すること。
 - 弁体にガタつきが発生した理由の一つとしている2023年2月2日以前に実施した耐圧バウンダリの構築におけるMO弁の手動操作について、作業要領書などを用いどのような作業内容だったのかを詳しく説明すること。
 - 前回面談資料（令和5年3月31日）の推定原因・対策等に記載されていた「手動弁の閉鎖など手順上の追加対策を講じる」について、実施計画との関係を整理すること。
 - 次回の特定原子力施設監視・評価検討会において、上記コメントへの対応状況等を含め、本事案の原因や対策等を説明すること。
 - 当該作業で用いた作業要領書、防護指示書など作業管理に係る図書については、今後、保安検査において確認を行うこと。

- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. 資料

- ALPS 処理水希釈放出設備B群循環攪拌運転時のA群タンクの水位低下について

以上